No. 6　　働　　勞

(十)無し　昌中の五十名の中が勘くするのを評さずして、遠に右下自決の処まで事件態は迫通し来つたものである。

(八)筆譯そのものは始めからするべからざるものをなしたので不利は無論然ならしが、其の的のないのを、自らを死地に引かくを見えるならば、全然見込なきのを家知し得る。

勘くの如き有様にして、同下の処ろ、右下が山及び家数其他全財産を十万円

(20×10=200)